

怪我対応マニュアル

《転落》 出血、意識がない場合

意識、呼吸の確認

【ある場合】

助けを呼び、園長に連絡 → 子どもの痛む所の確認 → 保護者、病院に連絡して見てもらう

【ない場合】

(個別でかかりつけの病院を確認しておく)

助けを呼び、園長に連絡 → 心肺蘇生、AED、保護者に連絡、救急車を呼ぶ

【予防のポイント】

- ・人工芝を遊具下、周辺に敷く。
- ・高所の遊具には保育者がつく。
- ・子ども達に気をつけるように声を掛ける。

《打撲》

【軽症】 すぐに冷たいタオルで冷やす → 湿布を貼って様子を見る

【重症】 嘔吐 等 → 保護者に連絡、病院に連絡

◎外傷がないかチェック ◎首より上の場合は保護者に連絡、病院へ行く又は救急車を呼ぶ

【予防のポイント】

- ・室内外の危険な箇所はチェックし、予防できる所は予防しておく。
- ・室内では走らない。

【持ち物】

メモ(後で、記録紙を書く) 鉛筆 時計

《骨折》を疑う場合

【子どもの様子】

- ・痛がって激しく泣く
- ・皮膚の一部がひどく腫れる
- ・皮膚の一部に内出血が見られる
- ・腕や足に力が入らない
- ・腕や足の向きがおかしい

- ・子どもの痛いところの確認
- ・園長、副園長に連絡

《重症》

その部分を副木(真っ直ぐ固定できるものなら OK)で固定し、心臓より上に上げた状態で冷やす

保護者に連絡
病院に連絡

→ 軽症の場合は、打撲の処置をする

【予防のポイント】

- ・好き嫌いせず何でも食べる様、子どもに伝える。
- ・「痛い時には必ず先生に言うこと」を子どもに伝える。

《切り傷》

【軽症】 切り傷を水で洗う → 手で押さえ止血する → 絆創膏、ガーゼを貼る

【重症】 切り傷を止血する → 園長に連絡 → 保護者に連絡、病院に連絡

【予防のポイント】

- ・危険な遊具は保育者が管理する。
- ・擦り傷などは子どもに次に気をつけるよう声を掛ける。

※他の怪我などは『子どもの事故・けがが起きた場合のマニュアル』に従う